

2. 研究経過の分析

1の研究経過報告をもとに、現在の研究状況について分析しましょう。

① 現在の研究状況として、もっとも当てはまるものに○をつけてください。

	おおむね当初の計画通りに研究が進んでいる
	当初計画とは異なる部分はあるが、研究は進んでいる
	研究があまり進んでいない

② ①のように判断した理由を具体的に述べてください。

--

3. 「研究経過のメタ認知力^{*}」の自己評価

1,2の記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない
1	研究経過の分析が不十分である。 そのような研究経過に至った経緯の要因は述べられているが、不明確である。
2	研究経過を分析することができる。 そのような研究経過に至った経緯の要因が明確に述べられている。
3	研究経過を客観的に分析することができる。 そのような研究経過に至った経緯の要因を、具体的な根拠に基づき明確に述べられている。

^{*}メタ認知力とは

自分の行動や考え方を客観的な立場から自分自身が認識する能力のこと。ここでは、課題研究における活動を客観的に捉え、自己評価した上で、制御・コントロールする能力について考える。メタ認知力を向上させることで、「自覚する」→「考える」→「行動する」というプロセスを成熟させることができる。

4. 研究ゴールの再設定

実際に研究してみて、計画通りに研究が進まなかったり、思わぬ結果により展開が変わってしまったりなど、研究計画時のゴールの達成が難しいこともあるかと思います。研究レポート提出までの研究期間は約2ヶ月です。この期間で達成可能な現実的な研究ゴールを再設定し、記入してください。記入の際は、研究により何を明らかにするのかを明記すること。

(研究計画時のゴールと変更がない場合は、計画時に設定したゴールについて記入してください。)

--

5. 今後の研究スケジュール

研究レポート提出までの残りの研究期間のスケジュールを具体的に示してください。

11月上旬	
11月中旬	
11月下旬	
12月上旬	
12月中旬	
12月下旬	
1月 日	研究レポート提出

6. 「研究遂行力」の自己評価

4、5の記述をもとに、該当する grade に○をつけ、自己評価しましょう。

0	以下のいずれにも達していない
1	達成可能な研究ゴールが再設定されていない。 今後の研究の進め方について、なすべきことが不十分もしくは不明確である。
2	達成可能な研究ゴールが再設定されている。 今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが示されている。
3	達成可能な研究ゴールが再設定され、具体的に示されている。 今後の研究の進め方について、ゴール達成のためになすべきことが、実験方法の概要や役割分担等を示すことにより具体的に示されている。

7. 研究ノートを活用状況

研究ノートを十分活用し、他者へ状況提供できるものとなっているでしょうか。結果が出なくても、おこなってきたことを記録に残していくことは大切です。研究ノートの活用について振り返ってみましょう。

0	以下のいずれにも達していない
1	研究の進捗状況を記録している。
2	研究の進捗状況をある程度記録できており、他者への開示にも応えられる内容となっている。
3	継続的かつ定期的に研究ノートを記録できており、他者への開示にも応えられる内容となっている。

8. 研究支援活用状況

水曜日の午後や夏休み期間中に行われている卒業生や同窓会による研究支援の活用状況の調査です。

1	活用しなかった。
2	活用した ----- 活用頻度・研究支援員・内容など、具体的に記してください。